

# ORA SYSTEM™ WITH VERIFEYE™ LYNK

これまでの白内障手術では、術前検査から予想して眼内レンズの度数を決定していましたが、最新の本システムでは手術中に眼の状態を測定し、眼内レンズの度数を最終判断することが特徴です。

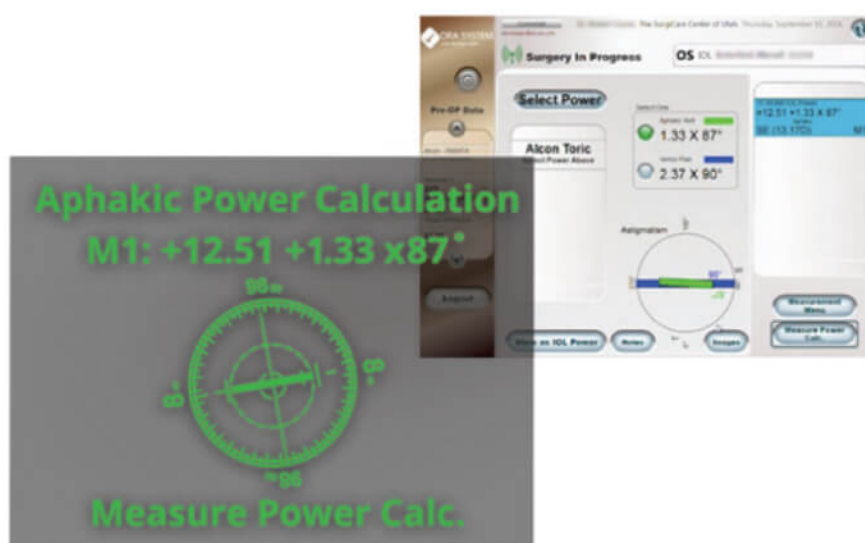
世界中の手術結果を基にした独自の計算で、患者さまに最も合う眼内レンズを提案してくれます。誤差の生じやすいレーシックなど屈折矯正手術後の方においても検証可能です。ベリオンとORAシステムがリンクしたことで、より正確な結果が得られやすくなりました。



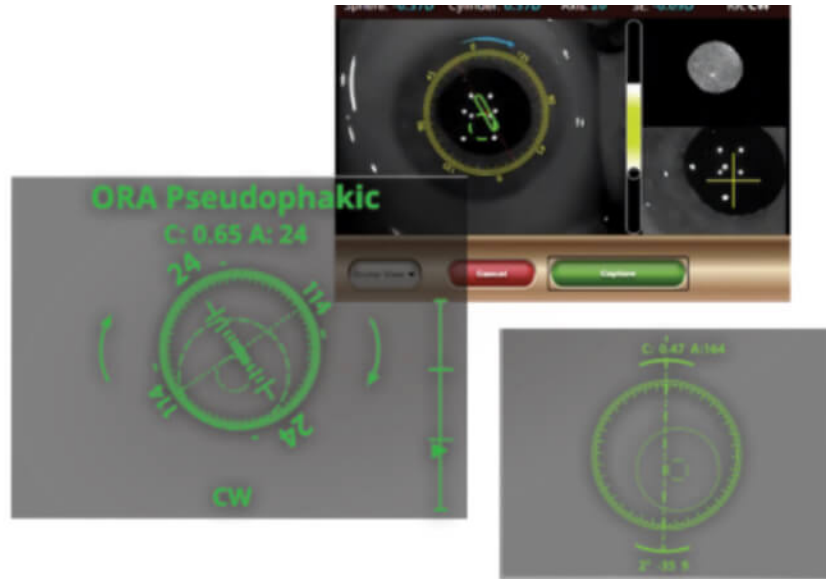
ORA は手術中に水晶体を取り除いた後、リアルタイムに眼の状態を測定することができます。ベリオンのトラッキング機能とリンクしているため、眼球の向きも考慮して正確に測定します。



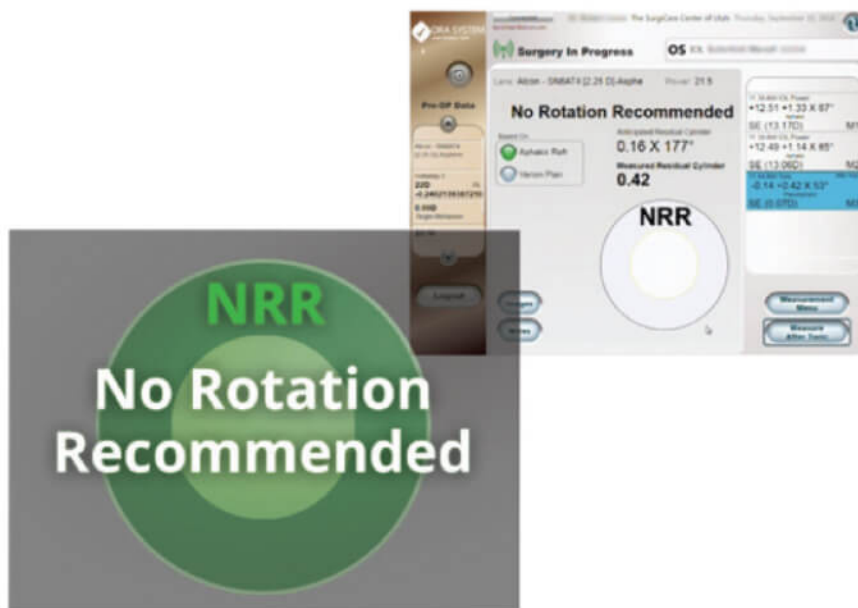
手術前の検査結果とリアルタイムの屈折値を同時に確認することができます。最適な眼内レンズ度数が表示されますので、ここで比較検証してから最終決定します。



眼内レンズ挿入後にもう一度測定します。リアルタイムの測定結果から、最適なレンズ固定位置と、乱視用眼内レンズの場合は最適な軸の位置を表示します。



リアルタイムの測定で目標とする乱視軸に眼内レンズが合うと、ORA がお知らせします。



# ARGOS<sup>®</sup>



## よりスマートな術前計画は外来から

アルコン社製のイメージガイダンス付きのアルゴスは、効率性と精確性を維持する、よりスマートなプランニングソリューションです。

## Faster

アルゴスの検査時の測定速度は非常に早く、また眼内レンズの度数計算に必要な情報を正確に得ることが出来ます。



### Easier

アルゴスは検者が OCT 画像を確認しながら測定出来ます。そのため、正しく測定出来ているかの判断を簡単にします。また検査で得られた情報を基に、アルゴスが自動で手術計画を作成します。



### Better

アルゴスの先進的な SS-OCT 技術は、市場をリードする他のバイオメーターよりも高い取得率を実現しています。またセグメント方式をもちいた眼軸長測定で、屈折予測誤差を改善。より良い IOL の選択に寄与する可能性があります。

